

2007 年度  
群馬大学小児科卒業試験問題

2007 年 11 月 26 日

【以下の問に答えよ】

問 1、平均的発達について誤っているのはどれか。

- (1) 追視は生後 4 カ月以降に見られる。
- (2) 声を出して笑うのは 6 カ月以降である。
- (3) 4 カ月までに、首がすわる。
- (4) 座位は生後 7-8 カ月で可能になる。
- (5) 走るのは 1 歳半以降である。

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

問 2、子どもの社会における存在について誤っているのはどれか。

- (1) 保護されるべき存在である。
- (2) 子どものための人権宣言がある。
- (3) 児童福祉法で権利が守られている。
- (4) 児童福祉法では小児は 15 歳以下である。
- (5) 大人に従属すべき存在である。

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

問 3、乳児健診に関して、正しいものはどれか。

- (1) 乳児健診では成長、発達の評価を行う。
- (2) 母乳栄養児の便は灰白色になりやすい。
- (3) 1 カ月では体重が生下時の 2 倍になる。
- (4) 離乳食は可能な限り、早期から開始する。
- (5) 3 才の健診では、聴力、視力を含む総合的なチェックを行う。

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

問 4、学校保健、予防接種に関して、誤ったものはどれか。

- (1) インフルエンザは学校伝染病である。
- (2) 発熱や重篤な急性疾患に罹患していれば、予防接種は見合わせる。
- (3) 流行性耳下腺炎は特有の咳嗽が消失するまで出席停止とする。
- (4) BCG 接種は乳児期（満 12 カ月）中に実施される。
- (5) 新二種混合（MR）ワクチンとは麻疹と風疹の混合ワクチンをさす。

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

問5、思春期に好発する疾患として誤ったものはどれか。

- (1) 過換気症候群
- (2) 起立性調節障害
- (3) 神経性食欲不振症
- (4) ミオクロニー欠伸てんかん
- (5) 鉄欠乏性貧血

a. (1)    b. (2)    c. (3)    d. (4)    e. (5)

問6、遺伝子異常により生じる以下の先天性代謝異常症について、正しいものはどれか。

- (1) GALT 遺伝子変異による古典的ガラクトース血症は早急な治療が必要である。
- (2) わが国の先天性副腎過形成症の中では11 $\beta$ 水酸化酵素欠損症の頻度が最も高い。
- (3) わが国のフェニルケトン尿症の頻度は欧米よりも高い。
- (4) Gaucher 病の唯一の治療は骨髄移植である。
- (5) Fabry 病はX連鎖性劣性遺伝形式をとる。

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

問7、誤った記述はどれか。

- (1) 少量のタバコをかじった子どもに胃洗浄を施行しなかった。
- (2) 乳幼児突然死症候群と家族内喫煙が関連すると報告されている。
- (3) リチウム電池を飲み込んだ乳児の胸部X線で食道内の電池を確認したため、背部殴打法を行った。
- (4) 乳幼児期の気管支異物の原因第1位はピーナッツである。
- (5) 13歳の男児が運動後失神し体動が見られないため、AED(Automated external defibrillator)の準備を指示した。

a. (1)    b. (2)    c. (3)    d. (4)    e. (5)

問 8、乳児を診察するにあたり、誤った記述はどれか。

- (1) 乳児の診察にあたり、母親の妊娠、分娩歴が重要である。
- (2) 6 カ月児のエネルギー必要量は約 350 Kcal/日である。
- (3) 乳児の腹部触診で肝が触れることは稀である。
- (4) Moro 反射は 3 カ月の乳児でもみられる。
- (5) 乳児の事故の原因として機械的窒息が多い。

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

問 9、小児の各年齢の検査所見で、正しい記述はどれか。

- (1) 出生直後は貧血傾向を示す。
- (2) 乳児の白血球分画では好中球が優位である。
- (3) 乳児期前期の 3-6 カ月に IgG は最も低値となる。
- (4) Kaup 指数が 20 以上であれば肥満傾向である。
- (5) 学童では乳幼児に比較しアルカリフォスファターゼは低値である。

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

問 10、下記の呼吸器疾患について正しいのはどれか。

1 歳の男児。2 日前から鼻汁、くしゃみ、咳が認められた。数時間前から咳が強くなり、中等度の呼吸困難があり、呼気性の喘鳴を聴取した。考えられる疾患はどれか。

- (1) ウイルス性クループ
- (2) 細気管支炎
- (3) 気管支喘息
- (4) 喉頭蓋炎
- (5) ジフテリア

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

問 11、誤った組み合わせはどれか。

- |              |       |            |
|--------------|-------|------------|
| (1) 気道リモデリング | ----  | 上皮基底膜肥厚    |
| (2) 手術用手袋    | ----- | ラテックスアレルギー |
| (3) ロイコトリエン  | ----- | 運動誘発喘息     |
| (4) 喘息死      | ----- | 吸入ステロイドの乱用 |
| (5) アドヒアランス  | ----- | 服薬指導       |

a. (1)    b. (2)    c. (3)    d. (4)    e. (5)

【以下の文を読み問に答えよ】

3歳の女兒。生後6ヶ月のときに細気管支炎の診断にて入院加療を受けた。その後、1歳すぎより年に数回、感冒時に咳嗽、喘鳴のエピソードが見られていたために、ロイコトリエン受容体拮抗薬を内服していた。9月末より咳嗽と鼻水が見られ、10月2日の夕方より咳嗽と喘鳴が増強し、夜間になり横になって眠れないため救急外来に受診した。受診時、喘鳴と呼気延長、陥没呼吸を認めた。検査所見では酸素飽和度は92%、IgE: 350 IU/mL、特異IgE検査では、ダニ2；スコア3、屋内塵；スコア3、ネコ；スコア2、アルテルナリア；スコア2であった。

問 12、生後6ヵ月時に罹患した細気管支炎に関して誤った記述はどれか。

- (1) 喘息発症との関連が指摘されている。
- (2) RSウイルスの迅速検査が可能となっている。
- (3) 未熟児や先天性心疾患児では抗ウイルス薬内服による予防が行われている。
- (4) 急性期にはロイコトリエンが産生される。
- (5) 喘鳴を呈する児ではIFN-gammaの産生低下が指摘されている。

a. (1)    b. (2)    c. (3)    d. (4)    e. (5)

問 13、本患児について問診で必要性の少ないものはどれか。

- (1) アトピー性皮膚炎の既往
- (2) ペットの飼育
- (3) 家庭での喫煙者の有無
- (4) 熱性痙攣の既往
- (5) 夜尿の有無

a. (1)    b. (2)    c. (3)    d. (4)    e. (5)

問 14、本患児について正しいのはどれか。

- (1) 喘息の重症度は間欠型である。
- (2) 今回の発作重症度は大発作である。
- (3) 血液ガス分析では、炭酸ガス濃度は 41mmHg 以下が予想される。
- (4) 今回の発作の誘引として、上気道炎などが想定される。
- (5) 発作治療として、イソプロテレノール持続吸入が第一選択である。

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

問 15、本患児の長期管理として正しいものはどれか。

- (1) 徐放性テオフィリン製剤が基本治療となる。
- (2) 薬剤のコンプライアンスを確認する。
- (3) 適切な環境整備を指導する。
- (4) ピークフローを測定する。
- (5) 吸入ステロイドは本患児の年齢では禁忌である。

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

【以下の問に答えよ】

問 16、小児の呼吸器疾患の診療にあたり、誤ったものはどれか。

- (1) 気管支狭窄症では、高調性の喘鳴(wheezing)が聴取される。
- (2) 喉頭軟化症では吸気時の喘鳴 (stridor) が聴取される。
- (3) 小児の無呼吸症候群の原因では、中枢性疾患の頻度が高い。
- (4) 慢性副鼻腔炎による咳嗽は遷延しない。
- (5) 胸水の確認には側臥位 (デクビタス) の胸部 X 線写真が重要である。

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

問 17、小児の上・下気道感染症について誤った記述はどれか。

- (1) アデノウイルスは咽頭結膜熱を引き起こす。
- (2) 冬季に学童の RS ウイルスによる肺炎の流行がみられる。
- (3) Chlamydia trachomatis は新生児期の肺炎の原因菌として重要である。
- (4) 百日咳では末梢血中のリンパ球が著増する。
- (5) マイコプラズマ肺炎の治療にマクロライド系の抗菌薬が用いられる。

a. (1)    b. (2)    c. (3)    d. (4)    e. (5)

【以下の文を読み問に答えよ】

4歳1カ月の男児。一昨日より、鼻汁、咳嗽、嘔声が出現し、近医にて加療されていた。本日朝から咳がひどくなり夕方より呼吸困難がみられたため、当院に紹介となった。体温は37.8℃、胸部聴診で吸気時に低調性の喘鳴が聴取された。血液検査では血沈1時間値18mm/hr、CRP1.2mg/dl、白血球数9,500/mm<sup>3</sup>、酸素飽和度は94%であった。家族歴、既往歴でも特記すべきことはなかった。

問18、本症例で最も疑われるべき疾患は下記のどれか。

- (1) 細菌性肺炎
- (2) 百日咳
- (3) 気管支異物
- (4) 急性細気管支炎
- (5) ウイルス性クループ

a. (1)    b. (2)    c. (3)    d. (4)    e. (5)

問19、本症例について正しい組み合わせはどれか。

- (1) 問診を行うにあたり兄弟の予防接種歴が重要である。
- (2) 原因ウイルスとしてパラインフルエンザウイルスが多い。
- (3) 喉頭ファイバー検査では声門下部の発赤、腫脹が見られる。
- (4) 喘鳴には左右差がみられることが多い。
- (5) 直ちに抗ヒスタミン薬の点滴静注を行う。

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

【以下の問に答えよ】

問20、好中球機能不全で易感染性を示す病原微生物はどれか。

- (1) 結核菌
- (2) 肺炎マイコプラズマ
- (3) 水痘ウイルス
- (4) カンジタ菌
- (5) ポリオウイルス

a. (1)    b. (2)    c. (3)    d. (4)    e. (5)

問 21、下のうち関係が深いと思われる組み合わせはどれか。

- (1) 混合性結合組織病 ----- レイノー現象
- (2) 全身性エリテマトーデス ---- ぶどう膜炎
- (3) 若年性特発性関節炎 ----- ゴットロン徴候
- (4) 皮膚筋炎 ----- ディスコイド疹
- (5) ベーチェット病 ----- ヘリオトロープ疹

a. (1)    b. (2)    c. (3)    d. (4)    e. (5)

問 22、水痘で正しいのはどれか。

- (1) 毛髪部に水痘疹が見られないのが特徴である。
- (2) Reye 症候群との関連はない。
- (3) 潜伏期は 2-3 週間である。
- (4) 免疫抑制状態では、重症化することがある。
- (5) 水痘に対するワクチンは定期接種である。

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

【以下の文を読み問に答えよ】

8 歳の女兒。生来健康であったが、2 か月前から弛張熱が出現。関節痛は認めなかったが、1 週間発熱が持続するため前病院に入院。そのとき抗核抗体 320 倍あり、関節症状を認めなかったが、若年性特発性関節炎疑いとして非ステロイド系消炎鎮痛剤が投与された。解熱し 1 週間で退院となったが、その 1 週間後に再び弛張熱が出現。さらに耳下腺部の腫脹、眼痛と眼の充血があり、来院した。来院時の所見では、体温 39.3℃、呼吸数 30/分、脈拍 80/分整で、圧痛を伴う両側耳下腺腫脹と眼球結膜の充血を認めた。検査所見では、軽度の貧血と CRP 1.3 mg/dl、ESR 60 mm/hr、抗核抗体 160 倍、リウマトイド因子陽性であった。

問 23、診断を進めていくうえで不要な検査はどれか。

- (1) 溶連菌迅速検査
- (2) 抗 SS-A 抗体の測定
- (3) ガムテスト
- (4) 耳下腺部の MRI 検査
- (5) シルマーテスト

a. (1)    b. (2)    c. (3)    d. (4)    e. (5)



問 24、確定診断のため造影検査を行った（図 1）。診断はどれか。

- (1) 混合性結合組織病
- (2) 全身性エリテマトーデス
- (3) 大動脈炎症候群
- (4) ベーチェット病
- (5) シェーグレン症候群

a. (1)    b. (2)    c. (3)    d. (4)    e. (5)

【以下の問に答えよ】

問 25、以下の疾患のうち黒色の血便（タール便）の原因となるものを選べ。

- (1) 食道静脈瘤
- (2) 十二指腸潰瘍
- (3) 潰瘍性大腸炎
- (4) 大腸ポリープ
- (5) 腸重積症

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

問 26、以下にあげる肝炎の原因ウイルスのうち、垂直感染をおこすものの組み合わせはどれか。

- (1) A 型肝炎ウイルス
- (2) C 型肝炎ウイルス
- (3) サイトメガロウイルス
- (4) EB ウイルス
- (5) ロタウイルス

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

【以下の文を読み問に答えよ】

症例は 11 歳女児。生来健康であった。鼻出血が 1 時間経っても止まらないことを主訴に受診した。意識は清明、眼球結膜に黄疸なし、眼瞼結膜に貧血を認めない。咽頭所見異常なし。腹部は平坦・軟で肝を触知せず、脾を左肋骨弓下 2 横指触知する。採血では Hb 11.3g/dl、RBC 392 万/ $\mu$ l、WBC 4400/ $\mu$ l、Plt 5.5 万/ $\mu$ l、フィブリノーゲン 160mg/dl、PT 比 50%、APTT 43.2 秒、総蛋白 6.9g/dl、アルブミン 3.2g/dl、総ビリルビン 1.4mg/dl、直接ビリルビン 0.1mg/dl、AST 67IU/l、ALT 34IU/l、LDH 281IU/l、 $\gamma$

-GTP 98IU/l、アンモニア 80  $\mu$ g/dl (3-47)、BUN 10mg/dl、Cre 0.3mg/dl、血清銅 63  $\mu$ g/dl (70-130)、セルロプラスミン 2.2mg/dl (19.8-34.5)、フェリチン 51.6ng/ml (3.3-105.4)。腹部 MRI では肝臓の全体的な腫大・表面の不整および著明な脾腫を認めた。

問 27、小児の肝硬変の原因として頻度の高いものはどれか。

- (1) 伝染性単核球症
- (2) A 型肝炎
- (3) C 型肝炎
- (4) ウイルソン病
- (5) 先天性胆道閉鎖症

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

問 28、以下のうち本患者にみられうる症状・病態はどれか。

- (1) 頸部リンパ節腫大
- (2) 難聴
- (3) 不随意運動
- (4) 溶血発作
- (5) 関節炎

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

【以下の問に答えよ】

問 29、正しいものを選べ。

- (1) 溶血性尿毒症症候群の基本治療は水分管理である。
- (2) 微小変化型ネフローゼ症候群は女児に多い。
- (3) フィンランド型先天性ネフローゼ症候群の基本治療はステロイド薬である。
- (4) 微小変化型ネフローゼ症候群の腎組織では免疫蛍光染色で IgA が沈着する。
- (5) 巣状糸球体硬化症はステロイド剤に反応することが多い。

a. (1)    b. (2)    c. (3)    d. (4)    e. (5)

問 30、手術により治癒が期待できる疾患を 1 つ選べ。

- (1) 異形成腎
- (2) 水腎症
- (3) 多発性嚢胞腎
- (4) 低形成腎
- (5) 馬蹄腎

a. (1)    b. (2)    c. (3)    d. (4)    e. (5)

問 31、上部尿路感染症について誤っているものを選べ。

- (1) 原因菌として最も多いのは大腸菌である。
- (2) 1 歳未満は女児が多く、1 歳以降は男児が多い。
- (3) 乳児期発症の場合、成人に比べ敗血症を合併しやすい。
- (4) 膀胱尿管逆流があると再発を来しやすい。
- (5) 尿定量培養では  $1 \times 10^5$  /ml 以上を有意とする。

a. (1)    b. (2)    c. (3)    d. (4)    e. (5)

【以下の文を読み問に答えよ】

症例は 5 ヶ月男児。一昨日より 38.5℃の発熱。同日嘔吐、下痢が出現。本日も体温 39℃で嘔吐、下痢が頻発し水分摂取もままならず、ぐったりとしてきたため外来受診。受診時体重 6680g で 1 週間前に比べ 10%の体重減少が見られた。体温 39℃、うとうとしており大泉門陥凹。顔面蒼白。胸部所見特記なし。腹部所見では、グル音消失。四肢末梢は冷感あり皮膚乾燥著明であった。血液検査を施行したところ WBC 11000/ $\mu$ l Hb 12.0g/dl CRP 0.1mg/dl Na 118mEq/l K 5.0mEq/l Cl 89mEq/l BUN21mg/dl Cr 0.8mg/dl であった。

問 32、本症例の状態につき正しいものはどれか

- (1) 体重減少の程度からは重症の脱水症である。
- (2) 血液ガスでは代謝性アルカローシスの像を呈する。
- (3) 減少している体液区は細胞外液である。
- (4) 心拍数は減少していると思われる。
- (5) 毛細血管再充満時間は 1 秒未満である。

a. (1)    b. (2)    c. (3)    d. (4)    e. (5)

問 33、本症例は急性腎前性腎不全と診断された。急性腎前性腎不全の病態、検査所見について正しいものはどれか。

- (1) 尿浸透圧 は 500 mOsmol/kg 以上である。
- (2) FENa は 1 %未満である。
- (3) 尿沈渣では上皮細胞や上皮細胞を含む顆粒円柱が多数出現する。
- (4) 両側の尿管結石で発症することがある。
- (5) 尿中 Na は 40 mEq/l 以上である。

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

【以下の問に答えよ】

問 34、小児心疾患の診断法について、誤った記述はどれか。

- (1) I 音は心尖部で最も良く聴取できる。
- (2) 3歳小児の心電図でV1誘導でR波高くST陽性の時は右室の圧負荷を疑う。
- (3) 右室拡大により胸骨が前方に突出することがある。
- (4) 高位心室中隔欠損に合併する大動脈弁逸脱は左冠尖に生じやすい。
- (5) 超音波検査により胎児期に完全房室ブロックを診断することができる。

a. (1)    b. (2)    c. (3)    d. (4)    e. (5)

問 35、各疾患の対応や治療に対する方針で誤っているものはどれか。

- (1) 在胎 35 週の胎児で動脈管早期閉鎖による胎児水腫を認めたため早期娩出の方針とした。
- (2) 完全大血管転位症 (PO2 25mmHg, 心室中隔欠損なし, 肺動脈弁狭窄なし) の新生児に、心房中隔裂開術を行った。
- (3) 劇症型心筋炎の 15 歳男児で、強心剤投与でも循環が維持できないため、一時的ペーシングおよび経皮的心肺補助を行うこととした。
- (4) 大動脈縮窄症手術後 1 年後再狭窄 (圧差 40mmHg) の 1 歳男児にバルーン拡大術を行った。
- (5) チアノーゼを主訴に搬送された新生児を総肺静脈還流異常と診断し酸素投与を開始した。

a. (1)    b. (2)    c. (3)    d. (4)    e. (5)

【以下の文を読み問に答えよ】

日令 28 の新生児。心雑音を主訴に来院。出生体重 2820 g、APGAR score 8-9-9。来院時体重 3320g、呼吸数 65/分、心拍数 120/分、SpO<sub>2</sub> 98%。胸部聴診上、胸骨左縁第Ⅲ肋間に最強点を有する収縮期雑音を聴取した。来院時心臓超音波検査の画像を示す(図2)。

問 36、本児の記載について誤った記述はどれか。

- (1) 体重増加は日令相当である。
- (2) 多呼吸を認める。
- (3) 両上下肢の血圧測定を行うべきである。
- (4) 将来的に自然閉鎖の可能性がある。
- (5) 連続波ドップラー法等による短絡部位の圧差の測定により右室収縮期圧の推定が可能である。

a. (1)    b. (2)    c. (3)    d. (4)    e. (5)

問 37、合併により症状が増悪しない疾患はどれか。

- (1) 僧帽弁狭窄
- (2) 僧帽弁閉鎖不全
- (3) 大動脈弁狭窄
- (4) 肺動脈弁狭窄
- (5) 動脈管開存

a. (1)    b. (2)    c. (3)    d. (4)    e. (5)

【以下の問に答えよ】

問 38、正しいものはどれか。

- (1) 母乳栄養児は貧血になりにくい。
- (2) Diamond-Blackfan 貧血は汎血球減少症を特徴とする。
- (3) 特発性血小板減少性紫斑病では APTT の延長がみられる。
- (4) Fanconi 貧血の診断に染色体脆弱性試験が有用である。
- (5) Kostmann 症候群では生後すぐに感染症を反復することが多い。

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

問 39、正しいものはどれか。

- (1) 小児期の ALL では precursor-B ALL が最も多い。
- (2) Down 症候群に伴う白血病では FAB 分類で M3 の形をとることが多い。
- (3) *MLL* 遺伝子の再構成が認められる乳児白血病は予後良好とされている。
- (4) JMML の診断には *BCR/ABL* キメラ遺伝子の検出が有用である。
- (5) Langerhans cell histiocytosis の合併症に尿崩症がある。

- a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

問 40、次の中で不活化ワクチンはどれか。

- (1) 流行性耳下腺炎ワクチン
- (2) DPT ワクチン
- (3) ポリオワクチン
- (4) 水痘ワクチン
- (5) 新二種混合 (MR) ワクチン

- a. (1)    b. (2)    c. (3)    d. (4)    e. (5)

【以下の文を読み問に答えよ】

症例は 14 歳女子。既往歴に水痘 (5 歳時) があるが、他に特記事項はない。家族歴で、母方祖父が胃がんにて死亡している。現病歴として、2 週間前より、疲れやすさの自覚あり、1 週間前より下肢にあざが出来やすいことに気づいた。昨日より 38℃の発熱あり、近医を受診、検査値の異常を認め、当院へ紹介された。検査データを以下に示す。

白血球	39,000/ $\mu$ l	総蛋白	6.2g/dl	FDP	9.5 ng/ml
好中球	5%	総ビリルビン	0.9mg/dl	D-dimer	6.8 ng/ml
リンパ球	10%	直接ビリルビン	0.2mg/dl	PT 活性	78%
芽球	85%	AST	48 IU/l	APTT	49.0sec
赤血球	223 万/ $\mu$ l	ALT	20 IU/l	AT-III 活性	68%
ヘマトクリット	21%	LDH	984 IU/l	フィブリノーゲン	120mg/dl
ヘモグロビン	7.5g/dl	$\gamma$ -GTP	22 IU/l		
血小板	2.1 万/ $\mu$ l	Na	137 mEq/l		
網赤血球	0.7%	K	4.7 mEq/l		
		Cl	107 mEq/l		
		Ca	10.4 mg/dl		
		CRP	6.2 mg/dl		

骨髄 Wright-Giemsa 染色標本の写真を示す (図 3)

<骨髄細胞表面マーカー解析>CD10 95%, CD19 92%, CD20 88%, HLA-DR 98%, 細胞表面 Ig 陰性、CD1 4%, CD3 2%, CD4 3%, CD7 5%, CD8 2%, CD13 7%, CD33 2%, CD34 85%、  
<骨髄染色体分析> 分析細胞全部で 46, XX, t(9;22)(q34;q11)を認めた。

問 41、本症例について正しいと思われるものはどれか

- (1) 広域抗菌薬の投与を検討する。
- (2) アンチトロンビンⅢ製剤の投与を行う。
- (3) 予後良好群と考えられ、第一寛解期での造血幹細胞移植の適応でない。
- (4) faggot 細胞の出現が特徴的である。
- (5) T 細胞性の形質を有している。

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

問 42、本症例について正しいと思われるものはどれか。

- (1) *AML1/MTG8* キメラ遺伝子の増幅を認める。
- (2) *minor-BCR/ABL* キメラ遺伝子の増幅を認める。
- (3) *E2A/PBX1* キメラ遺伝子の増幅を認める。
- (4) *PML/RAR $\alpha$*  キメラ遺伝子の増幅が認められる。
- (5) *EWS/FLI1* キメラ遺伝子の増幅が認められる。

a. (1)    b. (2)    c. (3)    d. (4)    e. (5)

【以下の文を読み問に答えよ】

問 43、新生児の感染症について正しいものはどれか。

- (1) HIV 合併妊娠においては、母子感染症を予防するために経膈分娩より帝王切開が優れる。
- (2) 単純ヘルペスウイルス感染症にガンシクロビルが有効である。
- (3) B 群溶血性連鎖球菌 (GBS) 肺炎は胎便吸引症候群類似の胸部 X 線写真像を呈する。
- (4) 米国では GBS 感染症予防策の分娩時母体 ABPC 投与普及後にメチシリン耐性黄色ブドウ球菌による新生児敗血症が増加した。
- (5) 先天性サイトメガロウイルス感染症では脳内石灰化を呈する。

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

問 44、出生後の新生児に最初に行う蘇生処置として適切なものはどれか。

- (1) 頸部を軽度伸展位とし、気道確保を行なった。
- (2) 十分な胃内容物の吸引を行い、胃液の逆流を避けるよう配慮した。
- (3) 皮膚が羊水で濡れているため、直ちに沐浴を行った。
- (4) 冷水につけて呼吸を促した。
- (5) 背中を乾いたタオルで丁寧に拭き取り、呼吸を促した。

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

問 45、妊娠 35 週、身長 156cm、体重 85kg の妊婦が早期破水のため産科に入院した。陣痛も発来しており、児頭骨盤不適合のため緊急帝王切開となった。児は在胎 35 週、出生体重 3567 g、アプガースコア 1 分後 8 点、5 分後 9 点にて出生し、図 4 の様な顔貌および耳の多毛を認めた。入院時の血糖値は 25mg/dl で速やかな糖液輸液を必要とした。本児およびこの妊婦に関して正しいものはどれか。

- (1) 低カルシウム血症を合併する。
- (2) 一過性の心筋肥大を呈する。
- (3) 母体に分娩中、抗菌薬を投与することが必要である。
- (4) 母体 HbA1c は 4%であった。
- (5) 児に特徴的な合併奇形は脊髄髄膜瘤である。

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

【以下の文を読み問に答えよ】

妊娠 39 週の妊婦が陣痛のため産科に入院した。入院後に羊水混濁を認め胎児の変動一過性徐脈、遷延性徐脈を呈したため緊急帝王切開となった。児は在胎 39 週、出生体重 2920 g、アプガースコア 1 分後 4 点、5 分後 8 点にて出生した。羊水は濃厚な胎便汚染を認めた。児は出生時筋緊張低下し、自発呼吸を認めなかった。

問 46、本児に対して出生直後に優先して行われるべき治療はどれか。

- (1) 気管挿管して、胎便が引けなくなるまで気管内を吸引した。
- (2) 胸骨圧迫心臓マッサージを行なった。
- (3) 自己膨張式バッグとマスクを用いて人工呼吸を行なった。
- (4) 背中をこする等の刺激を行い自発呼吸を促した。
- (5) 太い吸引チューブを用いて口鼻腔吸引を行った。

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)



問 47、本児は蘇生を受けた後、NICU に搬送入院となった。入院時には陥没呼吸、チアノーゼを認め、口元のマスクから 60%酸素 8L/分の酸素マスクによる酸素投与下で、経皮的酸素飽和度は 80%であった。胸部単純 X 線写真 (図 5) を示す。児の治療方針として正しいものを選べ。

- (1) インドメサシンの静注を行った。
- (2) ブラ縫縮術が必要である。
- (3) 人工呼吸器に接続し、人工呼吸管理を行った。
- (4) 右胸腔穿刺し、胸腔持続吸引を行った。
- (5) 抗菌薬を気管内に投与した。

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

問 48、新生児期に急激なチアノーゼ増悪の原因となりうる病態の検査所見として誤っているものを選べ。

- (1) 心臓超音波検査で右心室から連続する大血管から鎖骨下動脈が分枝する。
- (2) 心臓超音波検査で、左心房への肺静脈還流の欠如と共通腔が存在する。
- (3) 心臓超音波検査で、動脈管、心房中隔レベルでの右→左シャントが存在する。
- (4) 心臓超音波検査で心室中隔レベルの左→右シャントが存在する。
- (5) 経皮的酸素飽和度測定で、上肢より下肢の酸素飽和度が高い。

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

【以下の文を読み問に答えよ】

問 49、男性仮性半陰陽を呈する疾患はどれか。

- (1) アロマトーゼ欠損症
- (2) 21 水酸化酵素欠損症
- (3) 11 $\beta$  水酸化酵素欠損症
- (4) 17 $\alpha$  水酸化酵素欠損症
- (5) 5 $\alpha$  リダクターゼ欠損症

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

問 50、クレチン症の診断に必要な検査はどれか。

- (1) 下垂体前葉機能検査
- (2) 頸部超音波検査
- (3) 大腿骨遠位端X線写真
- (4) 手根骨X線写真
- (5) 副腎皮質機能検査

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

問 51、Turner 症候群の成人期に見られる合併症について正しいものはどれか。

- (1) 低血糖症
- (2) 低コレステロール血症
- (3) 甲状腺機能低下症
- (4) 耐糖能異常
- (5) 低血圧症

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

【以下の文を読み問に答えよ】

4 歳の男児が意識障害を主訴に救急車にて来院した。2 か月前より多飲多尿が見られ、3 ヶ月前は 16 k g であった体重は 14 k g に減少した。来院時、痛み刺激に反応なく、呼吸は Kussmaul 呼吸を呈していた。入院時緊急検査では、動脈血による血液ガス (room air) では pH 7.005、 $PO_2$  98.0 mmHg、 $PCO_2$  12 mmHg、BE -23.5 mmol/L であり、血糖 780 mg/dl、ヘモグロビンA1c 15.6 %、Na 145 mEq/L、K 6.1 mEq/L、Cl 102 mEq/L、尿糖 (4+)、尿ケトン (4+) であった。

問 52、直ちに行なうべき処置として適切なものはどれか。

- (1) 利尿薬投与
- (2) 重炭酸ナトリウムの投与
- (3) 生理的食塩水の輸液開始
- (4) ペーパーバッグ療法
- (5) インスリンの持続静脈内投与

a. (1)    b. (2)    c. (3)    d. (4)    e. (5)

問53、確定診断のために必要な検査はどれか。

- (1) 24時間蓄尿中の尿中C-ペプチド総量
- (2) 抗GAD抗体
- (3) 血中インスリン濃度
- (4) 有機酸分析
- (5) 経口ブドウ糖負荷試験

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

問54、この疾患について正しいものはどれか。

- (1) 約1/3の症例で経口血糖降下薬が有効である。
- (2) 遺伝形式は常染色体性優性である。
- (3) 自己免疫性甲状腺疾患を合併しやすい。
- (4) 突然発症し急性腹症など他疾患と鑑別がつきにくいこともある。
- (5) 発症前に肥満を伴うことが多い。

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

【以下の文を読み問に答えよ】

問55、小児のけいれん性疾患について、適切でないものはどれか。

- (1) 単純型熱性けいれんの多くは5歳以降に自然軽快する。
- (2) 憤怒けいれん(泣き入りひきつけ)は5~6歳頃に発症する。
- (3) 欠神発作にエソサクシミドは有効な事が多い。
- (4) ミオクロニー発作は光刺激で誘発される。
- (5) 強直間代発作が持続している時はジアゼパムの静注を行う。

a. (1)    b. (2)    c. (3)    d. (4)    e. (5)

問56、小児の神経疾患について、適切なものはどれか。

- (1) 無菌性髄膜炎では髄液中の糖が増加する。
- (2) ヘルペス脳炎が疑われたら、早期にアシクロビルを投与する。
- (3) Sturge-Weber症候群に特徴的な皮膚所見は三叉神経領域の血管腫である。
- (4) 亜急性硬化性全脳炎は麻疹罹患から一年以上以内に発症する。
- (5) Guillain-Barre症候群の弛緩性麻痺は上肢末梢から始まることが多い。

a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)

問57、小児の筋疾患について、適切なものはどれか。

- (1) Werdnig-Hoffmann病では血清CK，アルドラーゼは高値となる。
- (2) 福山型先天性筋ジストロフィーは脳奇形を伴う。
- (3) Duchenne型進行性筋ジストロフィーはX連鎖性劣性遺伝病である。
- (4) Duchenne型進行性筋ジストロフィーは新生児期から発症する。
- (5) 重症筋無力症は筋生検で確定診断される。

a. (1), (2)   b. (1), (5)   c. (2), (3)   d. (3), (4)   e. (4), (5)

問58、小児の疾患について、適切でないものはどれか。

- (1) 自閉症では言語発達は正常であることが多い。
- (2) 自閉症では他人と視線が合いにくい。
- (3) 神経性食思不振症では徐脈や低体温がみられる。
- (4) 児に対する言葉による暴力も虐待のひとつである。
- (5) チックを無理にやめさせることは好ましくない。

a. (1)   b. (2)   c. (3)   d. (4)   e. (5)

【以下の文を読み問に答えよ】

8ヶ月男児。【周生・既往歴】在胎週数39週、体重2800gで出生。1ヶ月健診にて心雑音を認めたため心エコーを施行し、心横紋筋肉腫を確認した。また出生時より皮膚に白斑が散在していた。【発達歴】定頸は4ヶ月、坐位は7ヶ月、独歩はまだできず、有意な発語もなし。【現病歴】約1週間前より、覚醒中頭部を前屈し上下肢を一瞬だけ挙上する発作を、繰り返し起こすようになった。また発作がみられるようになってからやや不機嫌になった。小児科を受診したところ、てんかんの疑いがあるため脳波検査をすすめられた。記録された発作間欠時の脳波(図6)と、患児が1歳半の時の脳MRI画像(図7)を示す。

問59、本例について適切なものはどれか。

- (1) 受診時(8ヶ月)までの発達は遅れている。
- (2) 心臓所見，皮膚所見，脳MRI画像から、最も考えられる疾患は神経線維腫症(von Recklinghausen病)である。
- (3) 発作型は欠伸発作である。
- (4) 脳波所見はhypsarrhythmiaである。
- (5) 発作型，脳波所見などから、最も考えられるてんかんはWest症候群である。

a. (1), (2)   b. (1), (5)   c. (2), (3)   d. (3), (4)   e. (4), (5)

問60、この症例のてんかんについて適切でないものはどれか。

- (1)発症時期は学童期が多い。
- (2)発作はシリーズ形成を認めるのが特徴である。
- (3)多くは精神運動発達遅滞などの後遺症が残る。
- (4)最も有効な治療はACTH療法である。
- (5)Lennox-Gastaut症候群への移行はまれである。

- a. (1), (2)    b. (1), (5)    c. (2), (3)    d. (3), (4)    e. (4), (5)